

発表テーマ 主体性の育成

テーマ選定理由

①大学の役割 私たちのグループでは、大学が担う役割は、大学は高等学校までの学びを経た学生を社会へと送り出すための『(後期) 中等教育と社会との懸け橋』とであると考えた。また、その役割を果たすためには、リーダーシップを発揮し、自ら考え行動し、論理的に問題解決に努める、といった“主体的で魅力的な人材を育成する”ことが不可欠であると考えた。

②大学の現状 高等学校までは学力に焦点が当たり、学生は答えのある問題に取り組む一方で、大学では答えのない問題に取り組まなくてはならない。そこでは、「自ら考える」という作業が必要となる。しかしながら、このことに気付いている学生が少なく、大教室での授業では教員の話を一方向的に聞くといった受動的な授業が多いため、能動的な姿勢が必要であることを気付かせることが困難である。

そのため、アクティブラーニングの実践や少人数教育を充実させて、能動的に考える力を育てることが必要と言える。

上記のとおり、大学の役割や現状を鑑みて、大学での学びについて学生に理解させ、充実した学生生活を経て社会へ飛び立ってもらうことが重要と考えた。これを達成するためには主体性の育成が不可欠であり、テーマとして選定した。

問題点の深堀

主体性の育成が不可欠ということは、大学入学までに主体性が十分に育まれていないということである。そこにどういった問題があるのかグループで議論した。そこで出た意見は、大きく二つに分類できる。

大学入学前 高等学校までは学力の向上を目的とした教育現場であり、そもそも主体性が必要とされない。また、高等学校を卒業後は就職するか進学するかの二択から選択する生徒が大多数であるため、自らの将来像をイメージするためのロールモデルとなる人材が不在である。そういった状況で主体性を発揮することは難しい。

大学入学後 大学での学びを高等学校の延長線上として捉えている学生が多く、回答のない問題に対して自分の意見を持ってない、または自分の意見を他者に表現することができない。また、授業の受け方やレポートの書き方が分からず、大学での学びの意義を自分なりに咀嚼することができない。

解決策の検討

上記の問題点を解決するために、教員、職員、学生という主体に何ができるか考えた。ICT 技術を活用してできるとこととしては、以下のとおりとなる。

教員 学生の提出した課題やレポートへのフィードバックを適切に行い、学生が主体的に学びを深められるよう支援する。また、授業の受け方といった基本的な知識をポータル上などに公開し、大学では主体性が必要となることを、学生に対して周知する。

職員 成績を IR 等で活用し、学生支援に役立てる。

学生 学生同士のフォーラムを開設し、学生同士で問題提起、問題解決を行える場を提供する。

大学のイノベーションの提案

上記のとおり解決策を検討し、具体的に二つの提案を考えた。まず一点目は、ポータルサイトのコンテンツの運用見直しである。ポータルサイト上で教員と連絡が取れることを可能にすることにより、学生が主体的に行動するための環境が整う。また、学生フォーラムを開設することにより、学生同士の問題解決の場を提供できる。二点目は、教職員と学生の間、学生間のフィードバックを充実させることである。スマートフォン等での授業参加を可能にし、随時、質問やコメントを受け付けるようにすれば、データの蓄積も可能であり、また学生へのフィードバック、学生間のフィードバックも可能となる。学生自身が自ら参加しているという実感も生まれやすく、主体性を育成することに直結する。

この提案を実施すれば、大学は『(後期) 中等教育と社会との懸け橋』としての役割をより果たすことができると、私たちは考えた。